一身田の新聞
発行
一身田地区
社会福祉協議会

急がれる「防災」への対応

忌々しい東日本大震災から、1年5ヶ月がたち、今なお、東南海地震などの発生が近いという現況に対し、私たち住民の危機感は深まるばかり。大戦争で失われた膨大な戦費にも似て、その国家的損失は勿論のこと、一瞬にして失われた幾万もの人命など、筆舌に記しがたい犠牲者の数々。猶予をもたぬ防災対応が今、急がれている。

津波に狙われる一身田

ひと口に災害といっても、その起因は竜巻や台風など多岐にわたる。しかし、その最たるものは、地震と津波である。発生が時間・場所、規模を問わぬまま、急遽キバを向けてくるからである。これに対し、私たちの防御力は極めて脆弱。とくに津波に到っては

昨年の3．11東日本大震災

である。「逃げるしかない」という全くお手上げの行政指導である。東日本大震災後、国も地方もヒステリックに「自主防災」を叫ぶようになった。「今更」という気がしないでもない。

しかし、被害者がいつでも「私たち自身」であることを考えればこの際、「ヤルシカナイ」のではあるまいか。

「ヤルシカナイ」防災対策

一番気になる津波について、一身田の被害を想定してみよう。

一身田の標高については大部分地域が2m～4mと低い。東海、東南海、南海、三つの地震が連動して発生した場合、その震度は7．5。一部地域では液状化現象で家屋の倒壊、火災発生も起こりうる。その後50分程で津波が志登茂川を逆流してくると云う。津波は志登茂川の堤防を乗り越え一身田地域の80％が浸水することが予想されている。

自主防災会、自治会、老人会、婦人会、商工会、青年団、一身田消防団など日頃からそれぞれの地区で防災に関わっておられる面々の一層の活動が期待されるところである。

身の処し方

①自助　自分でできることは自分でやる。
②共助　自治会や防災会など地域住民で助け合う。
③公助　地震発生から避難場所への公的援助には3日間はかかるだろうと云われている。

また、住まいの近くにある広場など一時避難場所へ避難し、態勢を整える。市指定の学校など地区指定避難場所など高い所に避難する。

いつ来てもおかしくない東南海地震。「高いところに逃げる」事を心がけよう。

一身田地区社会福祉協議会
会長　望木幹雄　記

特集　一身田の「防災」について考える
一身田の秋のイベント情報　敬老の集い・町民運動会・寺内町まつりなど
特別寄稿　市民の立場から取り組む「災害に強いまちづくり」

敬老のつどい

9月16日　人権センター大ホールで開催

主催　一身田地区社会福祉協議会

今年も恒例の「敬老のつどい」を9月16日（日）大古曽の人権センター大ホールで行います。

戦後極度に混乱した時代を経験され、その後、日本が驚異的な復興と発展を成し遂げた立役者である高齢者のご長寿と、ご健康をお祝いする事がメインです。同世代の旧友と元気な顔を合わせていただき、お互いの近況とか頑張った頃の思い出に花を咲かせて盛り上がって貰うのも一つの大きな目的であります。

「敬老のつどい」で恒例となっている一身田中学校吹奏楽部生徒の皆さんの演歌メドレー、地元顔見知りの皆さんの踊り、カラオケ等々。今年は新たに日本クラウンレコード所属の歌手玉木英理子さん、津出身のマジシャンT&Y横井徹さん、高虎太鼓のグループなど変化に満ちたプログラムを用意しました。

ご期待いただき、ご近所お誘いの上、多数の皆さんのお越しをお待ち致します。

一中　吹奏楽部の皆さん

一身田町民大運動会

10月14日　一小グランドで開催

一身田地区体育振興会（会長　森錦一）は10月14日（日）一身田小学校グランドで第38回町民大運動会を開催する。24の種目別競技があり、一身田町民なら誰でも自由に参加することができる。

例年人気の高い「釣りバカ日誌」や、笑いあり、涙ありの「障害物競走」、老人と幼稚園児8人一組の「老幼リレー」、男子3km、女子1．8kmの「ロードレース」、威信と誇りをかけた「各種団体別対抗リレー」、未来のオリンピック選手を夢見る「男女子どもリレー」、などスポーツを満喫する一日となる。

参加者も例年延べ2，000人～3，000人の方が参加する大イベントとなっている。

競技種目の参加者には、それぞれ参加賞や特別賞を用意する。

「一年を通じて最も過ごしやすいこの時期に身体を動かそう！」と実行委員長の小田芳延さんは参加を呼びかけている。

雨天中止予備日10月21日（日）

昨年の「老人と子どもの紅白玉入れ」　風景

待たれる五六川改修工事

寺内町内の側溝・道路の整備工事は秋から

三重県障害者センターや人権センター、三重県警一身田交番近くの五六川（ごろくがわ）は治水対策の一環として改修工事が行われている。この場所はJR試験場踏切の目の前にあり、交通量も多いところである。夢が丘から通学する児童にとっては「危険地帯」であり、しかも、大雨や台風時にはしばしば冠水する。

一小南グランドから旧農協前の大古曽地区は過去何回も床下浸水被害にあっている。

8月現在、五六川の橋は完成され、水路の整備、電気、電話、ガス管などのインフラ整備を行って平成25年度中には完成の見込み。橋の建設のためS状になっている迂回路はこの秋10月頃までに元通り復元する。（津北工事事務所建設維持担当　佐藤氏）

五六川改修の完成によって冠水の解消、浸水が解消される。一日も早い完成が待たれる。

寺内町内の残り秋から工事！

高田本山通りを中心とした寺内町整備は平成23年に第1期工事が終了。秋から第2期工事として、百五銀行や商店街などの地域残りすべて工事に入る。側溝、電柱、電話線などのインフラ整備、道路整備を行う。道路は本山通りと同様。完成は平成24年度中（同事務所）。

JR試験場踏切近く　工事現場

秋のイベント

敬老のつどい　9月16日（日）　人権センター
町民大運動会　10月14日（日）　一小グランド
寺内町まつり　11月18日（日）高田本山周辺

寺内町まつり今年も華々しく

●とき　11月18日（日）

●ところ　高田本山周辺

16回目を迎える寺内町まつりが11月18日（日）高田本山周辺で行われる。町民参加型の同まつりは、中学生、高校生が企画・構成から発表、販売など全面的に支えている。

子どもみこしや高田幼稚園児の鼓笛隊、一中吹奏楽部の演奏パレード、よさこい踊りが場を盛り上げる。

高田本山唐門前駐車場の特設会場付近では、高田高校家庭部のカフェショップ、津子どもNPOセンターのカレーハウス、有志で作る千人分の豚汁は、おにぎり付きで200円。それぞれ手作りの味を楽しむのも一興である。

本山通りは、香具師の焼きそばやクレープ、なつかしのゲーム、市内各地よりの物産販売会、北海道上富良野町の北海道物産展、商工会バザーなどが出店予定。

文化的催し物も盛り沢山である。盆栽展や山野草の展示・販売、高田本山宝物館の開放、人権センターのパネル展、身障者センター作品展、俳句会、カラオケ大会など。

特別参加として、市内分部町の唐人踊り・しゃご馬、中野の「おしっさん」を予定している。

「全くの手作りのまつりとして16年目を迎える。見るも良し。参加するも良し。一身田再発見の起爆剤になれば！」と実行委員長の岡幸男さんは話される。

絆のバトン？！

民生委員児童委員協議会からのお知らせ

「絆のバトン」とは、災害時に役立てるために、75才以上で、一人住まいの方に、急病や災害時に少しでも早く救急医療が受けられ、家族や親族に連絡が取れるように救急情報用紙に書き込み、「絆バトン」と呼ばれる筒に入れて冷蔵庫に保管してもらうシステムのことです。

津市から社会福祉協議会（社協）へ負託されました。10月下旬から

災害に強い街をめざして

津消防一身田分団長　中西万喜夫

台風シーズンです。防風、防災の準備は万全ですか？

お野菜やフルーツに旬の意識が薄くなったように、台風シーズンと云う表現が曖昧になりました。

今年は6月から台風4号が足早に日本を襲いました。また、台風と表記されなくとも梅雨前線の影響を受け、未曾有の雨量で九州地方や近畿、東海地方では幾度も水害や土砂災害に襲われ、多数の被害が発生しています。

我が町も例外ではなく、水には度々悩ませられました。

「備えあれば憂いなし」。地区によって災害の種類は違いますが、山地の方は裏山を、川の近くの方は流れと水量を、平地の方は側溝は常に流れていますか。日々観察を怠らず、避難行動を早め早めに実行して下さい。一旦水が溢れたらその場に近寄らないこと。

あらゆる天災は地球上で発生しています。暴風雨、異常高温、異常低温、竜巻突風、地震、津波、挙げたら切りがないほどあります。日頃から訓練を重ねて町内の皆さんの絆をしっかりと結びましょう。

大難は小難、小難は無難でありますように。

一身田盆踊り大会盛り上がる

恒例の「一身田盆踊り大会」は、雨のため一日に絞った8月12日、新装となった寺町通りに約400人の老若男女の踊り子が集まり、盛大に開かれた。

懸案であった寺町通りのカラー舗装と側溝改修が一応完成したことから、これを記念しての新会場による盆踊り大会となった。「東京音頭」など盆踊り定番の他、極津らによるヨサコイ踊りなど3時間にわたり会場を盛り上げた。催しでは一寿会の応援を得て、参加者らへの抽選会も開かれ、当たった人たちの笑顔がみられた。また、初めての試みとして「仮装大会」も開かれ、自治会役員、諸団体代表、住民の方で大いに会場を盛り上げた。

余談

「一身田の町おこしに少しでも役に立てば―」。そんな気持ちで有志が集まり、かかる新聞発刊を決めました。何と言っても素人集団の新聞製作です。お恥ずかしい限りです。皆様のお力を拝借し、立派な新聞に育っていくよう念じています。ご意見をお寄せ下さい。　編集部

特別寄稿

市民の立場から取り組む「災害に強いまちづくり」

一身田上津部田出身
元国土交通省職員
村主英明

東日本大震災の経験から、今、国民の防災への意識はかってないほど高まっています。わたしたちの津市でも、東海・南海・東南海地震が連動して発生した場合には、深刻な被害が発生するだろうと言われています。巨大地震の発生は避けることができませんが、被害をできるだけ抑えること、未然に防ぐことはできるのではないでしょうか。

「防災」「安全なまちづくり」という大きな課題に取り組む上では、国・県・市の行政や関係機関、専門家の役割が極めて重要です。

しかし、それと同時に、住民の生活に身近な安全については、住民の目線と感覚で、住民の立場から考え、住民みずからが取り組む、そういう姿勢も大事なことです。

大地震による死傷者の主な原因に挙げられるのは(津波を除けば)、①ビルや住宅の倒壊・崩壊、②市街地火災、③建物内での家具の転倒・落下の3つです。それらに対して個人でできる予防策としては、まず我が家の耐震補強工事が考えられます。しかし、持ち主の費用負担が大きいためなかなか進んでいないのが実情です。行政が補助金や強制力ある対策をさらに充実させる必要があります。また、家具の固定は、建築基準法のような法的な規制力が及びませんし、個人の住まい方や意識次第というところもあるため、行政主導では進めにくい面があります。

以上を踏まえ、市民主導で、市民の立場からできる対策として、「各家庭における家具の固定とも、家族の安全を一層高めることができます。

このような、市民の立場でできる対策も、地域で組織的に、専門家や事業者さんの協力も受けて取り組めば、絶大な効果を上げることができます。そして、その取り組みが浸透すると、「家具を固定しロジェクトを実行し、もちろん住民も積極的に協力すれば、将来、巨大地震に襲われたとき、市内では甚大な被害が発生したが一身田では死者がゼロだった、という奇跡を起こすことになるかもしれません。そのとき一身田の住まい方の安全点検」を提案したいと思います。

大地震でタンスが倒れて下敷きになれば、建物が倒壊しなくても家族が死ぬかもしれません。閉じこめられ逃げられなくなって火の手に襲われれば、怪我では済まない悲惨なことになってしまいます。たかだか家具の固定などと侮ってはいけません。家族の命をあなたが確実に救うことになるかもしれないのです。また、専門家のアドバイスを受けて住まい方（家具の配置、寝る場所など）を工夫するだけで安心したけど、やっぱり建物も壊れないよう補強しておこう」という意識が芽生え、住宅の耐震強化が進むことになるかもしれません。自治会で、あるいは有志による実行委員会が主体となって、地域全体でこのような人は言うでしょう。「これは奇跡なんかじゃありません。地域の人たちがみんなで安全な住まいと街を作ってきたからで、誰も死なずに済んだのは当然なんですよ」と。そう言いたいですよね。言えるようにしませんか。

志登茂地区での自主防災

佐脇正二

志登茂第二自治会の自主防災は一身田地区連合自治会、一身田地区自主防災協議会の下部組織として平成11年に立ち上げた。

組織を立ち上げるにあたり、当時の自治会長が中心となり、各組毎に趣旨説明と意見交換会をもった。その後、自主防災要領を作成し、防災組織を班別に分け、①情報収集班②初期消火班③避難誘導班④救出・救護班と分担を決めた。

構成員は各組より5名選出し、防災会会長をはじめとする67名体制を敷いた。自治会長や組長などは一年で交代するため「幹事」を設け、継続することに力点を置いている。

志登茂団地内の第二、第三自治会、自主防災会との協調と連携を保ち、情報の共有化や年2回の合同訓練。資材や機材の融通、災害活動時の応援。消防署の指導で初期消火、救命・救護訓練。地震体験車による体感会。三重大学准教授川口氏を招いての講演会。防火用品、非常食品の展示即売会。津市のボランティアグループによる家具の転倒防止器具の取り付けなどの活動を行っている。

私たちは数多くの訓練を通じ、防災意識の向上と「命を守る」意識の向上に邁進する。